

漁連だより

2025

2・3

No.355



第22回シーフードショー大阪の様子

CONTENTS/目次

第 22 回シーフードショー大阪	P1	まぐろの解体ショーを Harufes で開催 !!	P6
令和 6 年度『漁協監事研修会』を開催	P2	長崎県漁協青壮年部連合会会員・部員大募集	P6
「第 47 回全国海水養殖シンポジウム」	P3	積立ぶらすの再編・強化と経過措置（クロマグロ下止め特例）	P7
『長崎県いか釣漁業協議会』令和 6 年度県外浜廻り活動	P4	令和 7 管理年度（第 11 管理期間）におけるクロマグロ資源管理について	P8
『第 30 回全国青年・女性漁業者交流大会』が開催さる	P5	沿岸漁業を対象としたスマート水産業への取り組み	P10

第22回シーフードショー大阪

さる2月19日から20日にかけて、大阪市にあるATCホールアジア太平洋トレードセンターにおいて「第22回シーフードショー大阪」が開催されました。

「シーフードショー大阪」は、大日本水産会主催の水産をテーマとした西日本最大級の水産見本市であり、今年は「通販食品展示商談会大阪」と同時開催されました。今回のシーフードショーは、約230社が出展し2日間合わせて約1万人が来場され、終日賑わいを見せていました。

本会ブースでは鮮魚セット（養殖ぶり・養殖ヒラマサ・まがき等）、加工品（長崎ぶり餃子・イカ・タコ・イサキスライス・剣先いか姿造り等）、乾物品（煮干・カットわかめ・いりこふりかけ等）、約40品目を

展示し、高鮮度・高品質の本県水産物のPRを行いました。

鮮魚セットについては、近年需要が高まっているエラ・内臓除去後、真空包装した形態での展示を



開会セレモニーの様子

行い、加工品については、長崎県総合水産試験場（研究機関）と共同開発した「長崎ぶり餃子」の試食提供をしながら、本会商品の説明を行いました。



本会ブースの様子

事業推進部 営業課

今回のシーフードショーに参加し、全国的に資源が減少傾向にあるケンサキイカ・スルメイカ・サバ・アジ等の加工原料及び養殖ぶりフィレが全国的に少ないこともあり、フィレに関する問い合わせが非常に多く見られました。

また、養殖ぶり・鮮魚セットといった商品の輸出関係に対する問い合わせも多くあり、本会としても力を入れ始めている部門であるため、今後は輸出体制も強化しながら、国外への販売に努めて参ります。

本会の加工場では、昨年よりアルコール凍結機を導入し、様々な用途に合わせた商品提供が出来るため、新規開拓だけではなく、既存の取引先にも新商品の提案を行い、本県水産物のPR及び販売強化に繋げていきます。

令和6年度『漁協監事研修会』を開催

さる1月23日、ホテルニュー長崎において県下漁協の監事を対象とした研修会を開催しました。

当研修会は、漁協監事の役割について理解を深め、監査機能の充



研修会の様子

実のための知識と技能の向上を図るとともに、漁協の健全な発展に寄与することを目的に開催しています。

また、当研修会は例年3年毎に開催していますが、コロナ禍もあり、5年ぶりの開催となりました。研修会当日は晴天にも恵まれ、県内62漁協のうち42漁協

(128名)が参加しました。

開会にあたり、参加者全員で「役員宣誓10カ条」の唱和の後、本会高平会長による主催者挨拶では、漁業者の減少や高齢化、職員の不足等により漁協経営が多く困難に直面していることのほか、漁協における監事の役割について述べられました。

○研修内容

Ⅰ「JF監事の役割について」

Ⅱ「監事監査のポイントについて」

JF全漁連 JF全国監査機構

監査委員長 近江 正幸氏

研修Ⅰについては、監事の義務と責任のあり方についての心構えや役割、法的責任の実務ポイントについて説明がありました。

研修Ⅱについては、漁協経営の健全化に向けての監事の職務と実務上の留意点・チェックポイントについて説明がありました。



JF全国監査機構
近江監査委員長

Ⅲ「長崎県の漁協の現状と運営適正化について」

長崎県水産部漁政課検査指導班

参事 神寄 誠氏

県下漁協の現状や漁協を取り巻く近年の動向及び課題等について説明があり、漁協職員の業務負担が増加傾向にある中、業務効率化に向けたデジタル化への対応や漁協合併による組織基盤強化の必要性について説明がありました。

参加者からは「今後の参考となった」「大変勉強になった」等の意見が多くあり、今後も参加者の希望に応えつつ、より実りある研修会となるように努めていきます。



長崎県水産部漁政課
神寄参事

総務指導部 指導課

「第47回全国海水養殖シンポジウム」

長崎県かん水魚類養殖協議会



第47回全国海水養殖シンポジウムの様子

さる1月28日、愛媛県松山市にある愛媛県民文化会館にて、「第47回全国海水養殖シンポジウム」が2年ぶりに開催されました。当シンポジウムは養殖業の振興と発展を目的とし、本県からは本協議会平野会長をはじめとする27名が参加し、合計約500名が参加しました。

今回のシンポジウムのテーマは「未来の養殖を考える～養殖業界激動の時代を迎えて～」と設けられ、最初に全海水竹田会長の主催者挨拶に始まり、来賓を代表して水産庁高橋増殖推進部長及び愛媛県中村知事の挨拶の後、左記のテーマについて講演が行われました。

●「養殖の未来を考える～総合海洋産業としての養殖業～」

長崎大学海洋未来イノベーション機構環東シナ海環境資源研究センター

教授 征矢野 清氏

ながさきの海から「安心・安全な水産物生産を維持し魚食文化を守ること」、そして「日本の水産業の明るい未来をつくること」を目指したプロジェクト「ながさきBLUEエコノミー」について講演がありました。病原体や赤潮プランクトンが滞留しにくい沖合養殖への移行や、生産者の作業負担を軽減する為の技術開発（OT・AIの導入）など、若者が魅力を感じる水産プラットフォームの構築を目指すと訴えていました。

●「愛媛県水産研究センターにおける試験研究の現状と種苗生産・育種の事例」

愛媛県農林水産研究所水産研究センター

センター長 渡邊 昭生氏

愛媛県水産業の概要や、スマ・マサバの種苗生産、養殖技術開発に取り組んでいる水産研究センターの現状、マダイ・ブリなどの水産研究センターにおける育種の事例について講演があり、感染症対策や高温耐性の育種について苦慮していると訴えていました。

また、別会場にてトラフグ養殖部会が開催され、本県から6名が出席しました。兵庫県かん水魚協会の前田会長（トラフグ養殖部会長）進行のもと、各県より現在の在尾数や販売状況、インバウンド需要などについて報告があり、出席者による意見交換が行われました。



トラフグ養殖部会・全体部会の様子

『長崎県いか釣漁業協議会』令和6年度県外浜廻り活動

長崎県いか釣漁業協議会



水産庁との意見交換の様子

【水産庁】

水産庁では、資源管理部資源調整課資源管理室対応のもと、意見交換がなされました。赤塚室長からは、水産庁が進めている「資源管理の仕組み」について説明がありました。本協議会役員からは、

さる1月27日から1月29日にかけて、スルメイカ資源管理や、今後のいか釣漁業について意見交換を行うため、「水産庁」「全国いか釣漁業協議会」「水産研究・教育機構 開発調査センター」を訪問し、県外浜廻り活動を実施しました。



全国いか釣漁業協議会との意見交換の様子

「減少するスルメイカ資源の原因究明」「スルメイカ資源の重要性」「諸外国と協力した資源管理体制の構築」等の意見が挙げられました。

【全国いか釣漁業協議会】

冒頭、常任幹事である全国漁業協同組合連合会三浦常務より、近年のスルメイカTAC制度の内容や、全国的なスルメイカの漁獲状況について説明がありました。令和6年漁期の漁獲量は、昨年漁期の15,000トンを上回るものの、20,000トンには至らない見込みとなっており、令和7年漁期におけるTAC数量は19,200トンが提案され、昨年漁期と比較し約7割減少した数

量となっています。このような中、本協議会役員からは、「小型いか釣漁業者への配分」「沿岸漁業の高品質な魅力アピール」等の意見が挙げられ、本県いか釣漁業者に不利益がないTAC制度の要請がなされました。

【水産研究・教育機構 開発調査センター】

同センターでは、沿岸いか釣漁場の形成要因解明や漁場予測モデルの開発の為にLED灯を搭載した調査操業や、漁船観測データを用いた環境予測モデルの高度化など、様々な調査事業がなされています。また、近年問題となっている「クロマグロによるいか釣漁具の被害」についても、クロマグロを寄せ付けけない水中灯の開発など、調査が進められています。

このような調査事業では、地元の正確なデータが成果に結びつくことで、本協議会に対し情報提供の要請がありました。本協議会としても、今後のいか釣漁業の発展の為、これまで以上の協力体制を築いていきたいと考えております。

今回の県外浜廻り活動を通じて、改めてスルメイカ資源の重要性を痛感しました。本協議会としては、いか釣漁業者の経営健全化、発展に資することを目的に、今後も活動して参ります。

『第30回全国青年・女性漁業者交流大会』が開催さる

長崎県漁協青壮年部連合会

さる3月4日から5日にかけて「第30回全国青年・女性漁業者交流大会」が開催されました。全国から36団体が日頃の研究・実践活動について発表しました。

本大会は、全国の青年・女性漁業者が、日頃の研究・実践活動の成果を発表するとともに、参加者間の交流により知識や情報を共有・進化させることで、水産業・漁村の発展と活性化に資することを目的に毎年開催されています。

本県からは、昨年11月に開催した第27回長崎県青年漁業者交流会長崎県大会で、最優秀賞を受賞した吉浦祐大氏（九十九島漁業協同組合鹿町青壮年部）及び、優秀賞を受賞した下條浩人氏（吉岐地区漁業士会）の2組が長崎県の代表として発表しました。

本大会は5つの分科会に分類され「第1分科会…資源管理・資源増殖部

門」「第2分科会…漁業経営改善部門」「第3分科会…流通・消費拡大部門」「第4分科会…地域活性化部門」「第5分科会…多面的機能・環境保全部門」からとなります。吉浦氏は第5分科会…多面的機能・環境保全部門、下條氏は第3分科会…流通・消費拡大部門でそれぞれ発表されました。

発表は15分以内であり、発表終了後に5分程度審査員からの質問がありました。吉浦氏、下條氏は共に緊張した面持ちで発表し、終了後は安堵した表情が印象的でした。

2日目には各部門の審査員代表者からなる講評や各賞受賞者の発表が行われました。その結果、吉浦氏がJF全国女性連・JF全国漁業連会長賞及び全国漁業協同組合連合会会長賞を受賞し、下條氏が全国漁業協同組合連合会会長賞を受賞されました。

それぞれの取組の概要については次号以降に紹介致します。



下條氏が発表している様子



吉浦氏が発表している様子

まぐろの解体ショーをHarufesで開催!!

長崎県まぐろ養殖協議会

さる3月1日、出島メッセ長崎にてKTN主催のHarufesが開催され、そのステージイベントとしてまぐろの解体ショーを行いました。

当イベントは「みんなでSDGs（おとなも子どももあつまろう）」をコンセプトとして子どもが楽しめるコンテンツ、子育てや医療などの生活密着情報を発信するブース、家族でSDGsについて楽しく学べるコーナーなどが盛り込まれ、家族で楽しめるイベントとなっており、2日間行われました。

ステージイベントでは、ヒーローショーや高校生による吹奏楽パフォーマンズ、著名人によるスペシャルライブに加えてまぐろの解体ショーが実施されました。

解体ショーでは、本協議会の部長である双日ツナファーム鷹島(株)大西氏のマイクパフォーマンスを始め、同社の永田氏、山岡氏の巧みな包丁さばきで会場は盛り上がりました。くろまぐろに関する情報や豆知識をクイズ方式で伝え、正解者の中からじゃんけんに勝った選ばれし者にまぐろの柵をプレゼントしました。勝ち取った来場者は満面の笑みで受け取っていました。本協議会として、本県養殖くろまぐろの貴重なPRの場となりました。今後も県内外問わず消費者へPRを行って参ります。



まぐろを解体している様子



クイズに回答している
子どもの様子



クイズに参加している
来場者の様子

長崎県漁協青壮年部連合会会員・部員大募集

長崎県漁協青壮年部連合会

本会では、会員相互の連絡協調を図り、漁協青壮年部活動の強化を促進し、漁協と緊密に連携して水産業の発展や漁村文化の向上のため、様々な活動を行っています。

現在は、県下の漁協青壮年部員はもちろんのこと、系統団体や他の経済青年団体の青年部員に加え、研究機関（水産試験場や長崎大学等）とも定期的に情報交換を行っています。今年度は長崎女子短期

大学の生徒を対象とした水産教室を1年生、2年生に各1回ずつ開催し、捌く魚の特徴等の情報や捌き方を教えました。また、経営ならびに地域活動等の成果を発表する「全国青年漁業者交流会長崎県大会」を実施するとともに、会員相互の親睦を深めるために「ボウリング大会」を開催しました。

今後、青壮年部組織の更なる活性化及び強化を図って参ります。

本会の活動に興味がある青壮年部もしくは若手漁業者がいっぱいしゃれば、事務局までご連絡下さい。

●事務局：長崎県漁連指導課内（担当：兵藤）
電話：095-829-12413



全国青年漁業者交流会長崎県大会
表彰式の様子

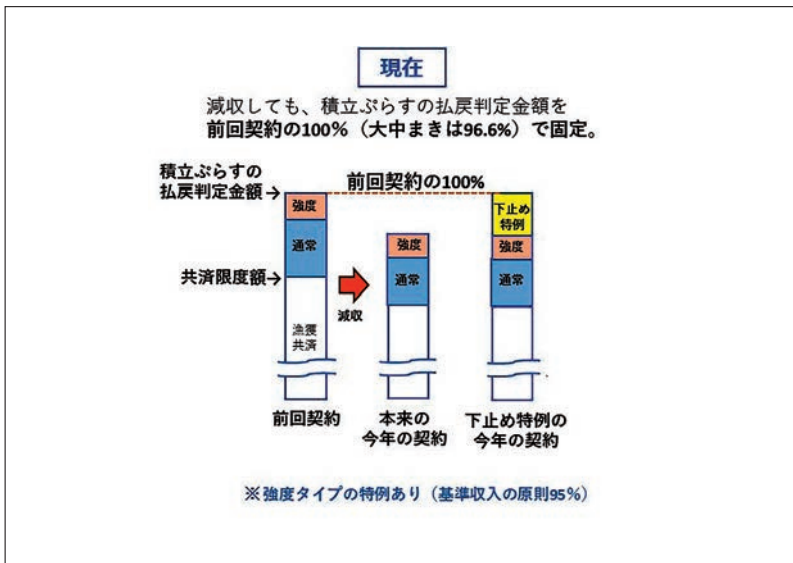


長崎女子短期大学との
水産教室の様子

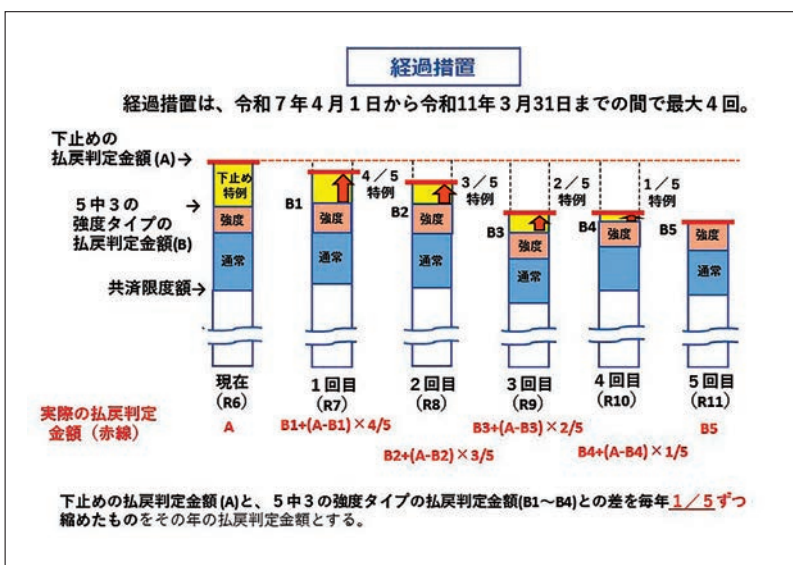
積立ぶらすの再編・強化と経過措置 (クロマグロ下止め特例)

長崎県漁業共済組合

クロマグロ下止め特例（太平洋クロマグロを漁獲する漁業者に対し発動ラインを過去実績で固定する仕組み等）については、クロマグロ漁獲実績の回復や、中西部太平洋まぐろ類委員会（WCPFC）での増枠見込み（実際に令和6年12月に増枠）から導入の前提が失われつつあること、対象者に偏りがあることを踏まえ見直すこととなりました。



強度タイプを維持



●クロマグロの下止め特例の見直しに当たっては、漁業経営への影響を考慮し、次のような措置を実施します。

① 太平洋クロマグロを対象とする漁業（定置網、まき網、かつお・まぐろ漁業等）については、払戻判定金額を特例的に引き上げる強度タイプ特例を引き続き維持する。

② クロマグロ下止め特例を直ちに廃止するのではなく、経過措置期間を設定。具体的には、5年後（令和11年度）の漁期終了後に行われる払戻しからは適用しないこととして、令和7年度から段階的に（毎年1/5ずつ）特例分の払戻しを削減する。

【問い合わせ先】
長崎県漁業共済組合
TEL 095-822-1680

令和7管理年度（第11管理期間）におけるクロマグロ資源管理について

長崎県水産部 漁業振興課

クロマグロ漁業関係者の皆様には、日頃からクロマグロ資源管理につきまして、ご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。今回は令和7管理年度（第11管理期間）におけるクロマグロ資源管理と、クロマグロ遊漁への規制措置の概要についてご説明させていただきます。

長崎県における令和7管理年度（第11管理期間）のクロマグロ資源管理

太平洋クロマグロについては、中西部太平洋まぐろ類委員会（WCPFC）での国際合意に基づき、我が国は平成22年から管理強化に取り組んでいます。平成27年1月から、30kg未満の小型魚の漁獲上限については平成14年から16年までの年平均漁獲実績から半減する措置がとられ、平成30年1月から、30kg以上の大型魚の漁獲上限については同期間の平均漁獲実績を超えない措置がとられました。これにより我が国の漁獲上限は、令和3年度（第7管理期間）まで、小型魚4,007トン、大型魚4,882トンと設定されました。令和4年度（第8管理期間）は、令和3年12月に開催されたWCPFCにおいて大型魚の漁獲枠が15%増で合意されたことを受け、都道府県管理枠の当初

配分は前年比で大型魚11%増、小型魚16%増となりました（大臣管理枠との調整の結果、小型魚も増枠）。

令和7管理年度（第11管理期間）は、令和6年12月に開催されたWCPFCにおいて初めて小型魚の漁獲枠が10%増、大型魚が50%増で合意されたことを受け、都道府県管理枠の当初配分は前年比で小型魚40%増、大型魚72%増となりました。また、本県への当初配分は、小型魚が879.9トン（都道府県区分における全国シェア30%）、大型魚が234.7トン（同シェア8%）と、前年から小型魚が151トン増、大型魚が60.8トン増となっています。

（1）海区分かつ採捕の種類別の割当量
令和7管理年度（第11管理期間）における県内5海区の漁船漁業及び定置漁業への配分量においても前年から増枠しており、これらの数量をもとに「長崎県くろまぐろTAC計画（令和7年3月28日策定）」に沿ったクロマグロ資源管理を行っています（表1）。

（2）漁獲量の公表及び早期是正措置
本県は漁業法第31条の規定に基づき、県全体、海区分かつ採捕の種類別等の

（表1）

採捕の種類 海区	小型魚の割当量			大型魚の割当量		
	漁船漁業	定置漁業	小計	漁船漁業	定置漁業	小計
県南	6.321	0.333	6.654	1.396	2.131	3.527
県北	38.729	25.427	64.156	1.396	14.385	15.781
五島	138.650	28.367	167.017	1.609	26.520	28.129
壱岐	175.040	17.174	192.214	148.654	10.888	159.542
対馬	418.703	16.684	435.387	7.545	17.330	24.875
県留保枠	14.472			2.846		
合計	879.900			234.700		

※ 数量は海区間融通や国からの追加配分等により変更する可能性があります。（単位：トン）

漁獲量が割当量7割を超えた場合、又はそのおそれがある場合に県HP等で公表することとしています。また、この公表後は、同法第32条第2項の規定に基づき、関係漁業者の皆様には消化率7割、8割、9割の各段階に応じた早期是正措置（操業時間・回数の削減や操業自粛（放流）等）を講じていただくこととなりますので、割当量を超えさせないようご対応をよろしくお願ひします。

(3) 漁獲報告

クロマグロは平成30年からTAC対象となっており、クロマグロを漁獲した場合は、同法30条第1項の規定に基づき県への報告が義務化されています。本県では週次報告（火・月曜の実績を火曜日に報告）、月次報告（前月の実績を翌月1日に報告）のほか、消化率7割公表後の漁獲があった日ごとの報告等を定めています。本県のクロマグロを漁獲するほぼ全ての漁業者の皆様は、これらの報告を所属漁協に委任されていますが、関係漁業者及び漁協の皆様におかれては、引き続き適時適切な漁獲報告にご協力いただきますようお願いいたします。

（参考）長崎県くろまぐろTAC計画
<https://www.pref.nagasaki.jp/shared/uploads/2024/03/1742977952.pdf>

令和7年度におけるクロマグロ遊漁への規制

前述のとおり、太平洋クロマグロについては、WCPFCで決定した国際ルールに基づき、漁業者に対し厳格な数量管理を実施しています。このため、遊漁者についても、資源管理の実効性を確保するため、令和3年6月から広域漁業調整委員会指示による規制が導入されました。

クロマグロ遊漁については、令和7年2月25日に発出された日本海・九州西広域漁業調整委員会指示第79号では、「小型

魚（30kg未満）の採捕禁止」、「大型魚（30kg以上）の採捕制限（1人毎月1尾まで）」及び「採捕報告の義務（遊漁者が大型魚を採捕した場合には、陸揚げし1日以内（3日以内から期間短縮）に水産庁へ報告すること、報告内容も船の情報等追加）」が定められ、有効期間は令和7年4月1日から令和9年3月31日となっています。また、大型魚については、月ごとに採捕可能な数量が設定され、数量が超えるおそれがある場合はその時期中の採捕禁止が公示されます（表2）。

また、違反が確認された場合、直ちに農林水産大臣名で広域漁業調整委員会の指示に従うべき旨の命令（裏付け命令）が発出されます。命令に従わない場合、漁業法第191条に基づき、罰則（1年以下の懲役、50万円以下の罰金等）が適用されますので、関係漁業者の皆様におかれましては、ご承知いただきますようお願いいたします。

おわりに

平成27年から開始したクロマグロ資源管理の取組により、最近では、沿岸への大量来遊や、漁獲サイズの大型化など、資源回復の兆

しが認められています。

また、資源評価上も資源管理の効果が見られており、資源が急激に回復しています。

一方で、令和7管理年度（第11管理期）については前年から増枠しますが、限られた本県配分量の枠内での漁獲となることから漁獲努力量の削減や放流など、関係漁業者の皆様には大きなご負担を強いられる状況となっています。県といたしましても、引き続き、国に対して漁獲枠の拡大を要望するとともに、海区间融通や県間融通によりクロマグロ漁獲枠の有効活用を図ってまいりますので、皆様のご理解とご協力のほどよろしくお願いいたします。

釣り人(遊漁船・プレジャーボート利用等)の皆様へ

クロマグロ釣り

令和7年4月からルールが変わります！



大型魚(30kg以上)の釣りのルールの主な変更点

- ✓ 持ち帰ることができる尾数は1人毎月1尾まで！
- ✓ 陸揚げ後の報告は翌日まで！
- ✓ 報告内容の追加！
 - クロマグロの長さがわかる写真
 - 陸揚げ場所(港、マリーナなど)
 - 船の情報(遊漁船登録番号又は船舶番号)
 - 本人確認書類(免許証など)

★ 小型魚(30kg未満)の釣りは周年禁止！

※ 意図せずクロマグロを採捕した場合には直ちにリリース。
 釣行前に必ず採捕禁止期間ではないことを確認！

クロマグロ 遊漁 水産庁

【お問い合わせ先】水産庁管理課(遊漁課) 遊漁係
 TEL: 03-5502-8111(内線4105)

(参考) クロマグロ遊漁に関するポスター
 (水産庁作成)

(表2) 令和7年4月から令和8年3月における大型魚の採捕可能数量

時期	R7年4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R8年1月	2月	3月
数量	5トン	5トン	5トン	5トン	5トン	5トン	5トン	5トン	5トン	5トン	5トン	5トン

沿岸漁業を対象とした スマート水産業への取り組み

長崎県総合水産試験場
漁業資源部 海洋資源科

はじめに

『漁業・養殖業生産量の減少、漁業就業者の高齢化・減少等の厳しい現状に直面している水産業を成長産業に変えていくためには、近年技術革新が著しいICT・IoT・AI等の情報技術やドローン・ロボット等の技術を漁業・養殖業の現場へ導入・普及させていくことが重要』（令和5年度水産白書抜粋）であり、民間や公的機関でスマート水産業に関わる様々な技術開発や、活用・普及等の取り組みが進められています。

長崎県においても平成29年度から令和3年度に、九州北部3県や九州大学、民間と連携した水産庁委託事業「ICTを利用した漁業技術開発事業」に取り組みました。

この成果については、令和3年2月発行の「漁連だより」で、水温や塩分、流れ等の予測情報を閲覧できるアプリや、漁業者参加型観測について紹介しています。今回は、事業終了後の活動状況や、新たな取り組み事例等について紹介いたします。

海況予測閲覧アプリ（海の天気予報）

前述の「ICTを利用した漁業技術開発事業」

において、水深毎の水温、塩分、流れを予測できる海況予測、いわゆる「海の天気予報」を開発し、現在、流れを動画で閲覧できる有料版のスマートフォンアプリと、機能限定ではありませんが県ホームページでもアプリと同じ精度の予測情報を配信しています。さらに、スマートフォンアプリはアンドロイド専用ですが、 아이폰でも同様の機能を利用できるウェブアプリが令和6年度に開発されました。なお、本ウェブアプリに興味がある方のために、同様の機能を利用できる「お試し版」を公開しております（図1）。文末にリンクを掲載しますので、ぜひご覧ください（※1）。

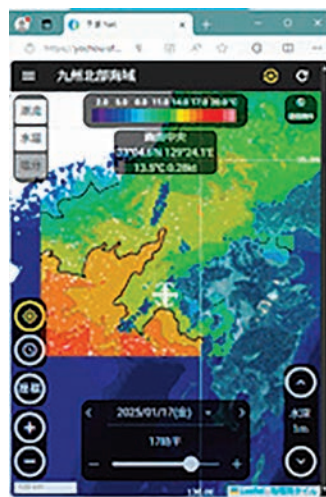


図1：海況予測ウェブアプリ（お試し版）

漁業者参加型観測網の拡大

「海の天気予報」は、九州大学が開発した海況予測モデルを利用して作成されています。予測モデルでは、計算時に予測海域周辺の人工衛星や海洋観測等のデータを入力しますが、時間の経過とともに予測値が現場の値と乖離していくことがあります。このため、漁業者が操業を行う漁場で海洋観測を行う、漁業者参加型海洋

観測で得られたデータで予測モデルを再計算することにより、予測値の精度向上を図っています。観測に参加している漁船数は、先に「漁連だより」で紹介した令和3年度の20隻から33隻となり、各々の海域で操業中に、小型観測機器（図2）や潮流計による観測をしていただいています。

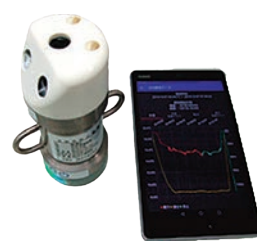


図2：漁業者が簡易に扱える小型観測機器

観測データは携帯電話通信により九州大学に送られ、予測モデルの再計算に用いられるほか、観測されている漁業者にとっても、現場の海況を知る貴重な資料となっています。これは、漁船に設置された水温計では分からない、海中の海況変化（棚）や、海面と大きく異なる底水温などを知ることができするためです。また、総合水産試験場では各観測者の観測状況を把握するために、随時モニタリングしています。この状況は観測者のほか、誰でも閲覧できるようにになっており、観測水温等も確認できます（※1）。今後も予測モデルの向上のためには、漁業者観測数を増やす必要があります。ご自分の漁場海況を知りたい等、漁業者観測に興味がある方は、ぜひご連絡ください。

研究連携「ハニーネット」の活動

前述の水産庁委託事業は令和3年度に終了し、事業による成果を活用してスマート水産業

を継続的に実施するために、新たに研究連携コンソーシアムとして「スマート沿岸漁業ネットワーク（S F i n）」が設立されました。本年度から長崎市を含む3機関が加わり、現在、北海道から沖縄県まで産・官・学27機関で構成されています。なお、市としてのS F i nへの参画は長崎市が初めてとなります。S F i nでは定期的に総会を開催し、各機関の取り組み状況や、最新の研究事例の紹介と併せて、課題・問題点の整理等、活発な議論を行っています。特に、長崎県は離島を含み対象海域が広いため、市町との連携は重要であると考えており、今回の長崎市の参画は、今後の本県スマート水産業における取り組みの促進につながるものと期待しているところです。

S F i nは「参画機関が連携し、研究・開発及び人的交流を促すことで沿岸漁業のスマート化と漁家経営の改善を目指す」ことを目的としています。長崎県内の市町・水産関係の方でスマート水産業に興味がある方は、ぜひご連絡ください。

九州大学の予測モデルを用いた新たな取り組み

予測モデルでは将来の流れの状況について分かることから、海中の粒子の動きについて予想することができず。そこで、総合水産試験場では長崎大学と共同研究を行い、予測モデルを用いて、赤潮プランクトンを粒子と見立てることによる赤潮移流予測を行っています（図3）。このことにより、赤潮の挙動を早期に把握し、被害軽減を目的として養殖業関係者への迅速な

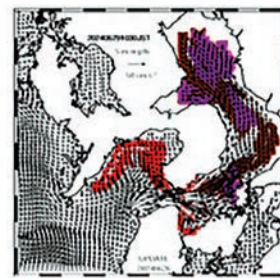


図3：赤潮移流予測試験結果の一例

情報提供を行うことができました。今後は、漁業者観測データによる予測モデルの精度向上を図ることで、さらに正確な赤潮移流予測が可能となり、赤潮対策に活用されることが期待されます。

また、定置網や沿岸の釣り・刺網等を操業されている漁業者を対象とした極沿岸域の海況情報についても作成し、試験的に情報配信しています（図4、※1）。これは、九州大学が従来の予測モデルとは別に作成した高解像度の非構造格子モデルのデータを用いており、より詳細な情報を得ることができるようになります。なお、非構造格子モデルも入力データとして従来の予測モデルの値を使用していますので、漁業者観測データによる精度の向上が期待できます。現在、五島、有明海・橘湾、伊万里湾の情報を配信しています。今後は、非構造格子モデルが対象と



図4：極沿岸域海況情報（有明・橘湾）

する海域の拡大に応じて、情報配信の範囲を広げていきたいと考えています。

おわりに

今回は、現在総合水産試験場が行っている沿岸漁業を対象としたスマート水産業の取り組みについて紹介しました。取り組みにあたっては、現場の皆様の意見をお聞きしながら進めています。S F i nへの参画、漁業者観測への参加も含めて皆様のご意見をいただければ幸いです。（ab06011280@pref.nagasaki.lg.jp 海洋資源科）

（※1）なお、本誌で紹介した各情報のリンクを記載したホームページを作成しています。QRコードもしくはURLアドレスをご利用してご覧ください。（担当 高木 信夫）



<https://marinelabo.sakura.ne.jp/gyokaikyo/info.html>

漁船海難月報

令和7年3月号 第七管区海上保安本部
第256号 交通部安全対策課 発行

令和7年2月発生
七管内漁船海難 計0隻

令和7年2月末現在 累計3隻(前年同6隻)
漁船海難発生隻数は前年に比べ3隻減少

漁船海難隻数 (速報値)	県別内訳	
	2月	令和7年累計
漁船海難 発生なし	山口県	0 0(1)
	福岡県	0 2(0)
	佐賀県	0 0(0)
	長崎県	0 1(3)
	大分県	0 0(2)
合計 0隻(昨年6隻) 死亡、行方不明者: 0名	その他	0 0(0)
	合計	0隻 3隻(6隻) ()は昨年同月



累計死亡・行方不明者数 0名(令和7年2末日現在)

漁船月報発行から初！

(平成16年1月発行より20年以上)

月間の漁船海難発生隻数 **0** !

ゼロ



2月の漁船海難は、初の**0隻**(速報値)でした。
漁船を運航する方々の、日頃からの安全運航
の徹底により達成した月間漁船海難0隻です。
引き続き安全運航の徹底をよろしくお願いします！

インターネットショッピングサイト

長崎県の安全・安心で新鮮な鮮魚・加工品を
インターネットを通じてダイレクトに食卓へお届けします!!

美味しいものはここにある

長崎漁連

ウェブショッピング JF長崎漁連

<https://www.jf-nagasaki.com>

長崎自慢の海産物を
ネットでお取り寄せ!

長崎漁連 検索

JF 長崎県漁業協同組合連合会

スマートフォン用サイト

<https://www6.kaiho.mlit.go.jp/sp/index.html>

各情報のアイコンをタップすると情報の件名等が表示され、さらにタップすると詳細な情報が表示されます。

- 気象警報・注意報等
 - 気象警報・注意報等のアイコンをタップすると気象庁が発する気象警報・注意報等を確認できます。
- 気象状況
 - 気象状況のアイコンをタップすると「風向・風速等」の数値等を確認できます。
- 海域情報
 - 海域の図形をタップすると船舶事故が多発する海域などの情報が確認できます。
- 現在地の座標
 - 現在地の緯度・経度を表示します。
- 海難防止に係る安全啓発情報等の表示
 - 全国的に共通する情報
 - 海上保安庁等が提供する情報（地域情報）※詳しくは海難防止をタップすると詳細情報が表示されます。
- 緊急情報
 - 緊急情報のアイコンをタップすると航行船舶に影響のある緊急情報が確認できます。

※イメージ図です。

パソコン用サイト

<https://www6.kaiho.mlit.go.jp/>

携帯電話用サイト

<http://www6.kaiho.mlit.go.jp/m/index.html>

●本サービスは無料でご利用いただけますが、サービスを利用するために必要な設備やウェブアクセス、電子メールの送受信等に必要な費用（通話料）については利用者の負担となります。

あっぱれ

信頼を築いていく
船舶塗料の専門店

CMD 中国塗料株式会社 代理店 山二塗料です

山二塗料産業株式会社

外壁塗装・屋根塗装なら
山二におまかせください!!

山二塗料産業株式会社
〒851-8501 長崎市田中町593-1
TEL: 0956-31-8020
FAX: 095-837-8020
095-260-0600

まごころで大きく包む

パッケージ資材全般・包装機械

株式会社 丸本

本社・営業部 / 〒851-0134 長崎市田中町593-1
☎ 095-837-8205 FAX 095-837-8208
工場・営業所/福岡工場・熊本工場・福岡営業所

定置網周辺の潮流・水温リアルタイム計測

主な仕様
フロート径: Φ100cm
フロート材料: 厚膜ウレタンコーティング樹脂製
筐体材料: 耐食アルミニウム合金
全備質量: 約52kg(充電電池含む)
適用電源: 鉛蓄電池(12V80AH)
適合機器: 携帯電話(ドコモ、ソフトバンク、MVNO)
通信機器: 携帯電話(ドコモ、ソフトバンク、MVNO)
計測センサー: 潮流(潮流流速)、水温

株式会社ゼニライトプライ

九州営業所 TEL: 092-674-0001 FAX: 092-674-0002

一般作業用長靴 ハイビジョン (23.0cm～28.0cm)

シバタ工業株式会社
長崎出張所 〒852-8124 長崎市辻町3-40 平山ビル1F
TEL: 095-844-1210

シーガル201

SHIBATA

FURUNO

CHALLENGE the INVISIBLE.
“見えないものを見るために”

古野電気株式会社
北九州支店 / 長崎営業所 095-861-3261 佐世保営業所 0956-48-4440
福岡営業所 092-711-1777 www.furuno.com

Printing&Planning SEIBUNSHA

(有)正文社印刷所

〒850-0874 長崎市魚の町6番6号
TEL (095) 826-0211
FAX (095) 825-0538
URL <https://seibunsha.jp>

SDGs

貝殻 リサイクル魚礁



JFシェルナース



魚礁 (6.0 型)



イサキ(対馬市)



ヒラマサ(西海市)



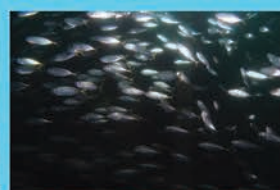
メバル(佐世保市)



イセエビ(新上五島町)



マダイ(対馬市)



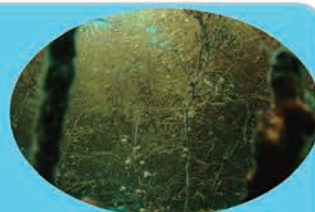
マアジ(南島原市)

保護礁 (プラス 1.0 型)



漁業者による
種苗の準備

取り付けた海藻は
順調に
生長しています！



設置10年以上経過
ホンダワラ類(長崎市)



2カ月後(長崎市)



1年2カ月後(対馬市)



1年5カ月後(平戸市)

漁師の考えた小型ブロック

かいそう
貝藻くん



60cm×55cm×45cm、重量60kg

長崎県内で1,156基(全国 約12,573基)
ご採用いただいております(2013~2024.4.1現在)



クロメ生育状況



下の隙間に隠れるクエ

お問合せ JF長崎漁連 購販部 購買課 TEL 095-829-2420

開発・製造 海洋建設株式会社

JF
JFグループ

JF
JFグループ

着けよう、
あなたが家族のことを
思うなら。

めさせ！
海難事故
ゼロ

自分の命は自分で守る！
わずらわしさと窮屈さから解放！
ベスト感覚で着れる
ファッションなライフジャケット
常時着用型救命胴衣（自動膨張式）

膨張時

反射リフレクター
エア入補充バブル
ホイッスル
炭酸ガスボンベ
手動レバー

お問い合わせは、長崎県漁連 購買課まで TEL 095-829-2418~2420

「ギョレンオイル大漁」 発売から 50 年



「ギョレンオイル大漁」は、漁船で使用される機械とその使用条件を考慮して定めた規格に合わせて開発した、漁船のためのエンジンオイルです。

ギョレンオイル
大漁
シリーズ

大漁スーパー

中・小型漁船の高速エンジン用（SAE30、40、15W-40）

大漁ロイヤル

大・中型漁船の中・低速エンジンオイル（SAE30、40）

大漁LL

大・中型漁船の長期航海用（30、40）
小型高出力エンジン用のロングライフオイル（15W-40）

大漁ハイドロスーパー

耐荷重性に優れた漁船用油圧作動油（ISO VG32、46）

大漁ベストクール

陸上冷凍装置から遠洋漁業の超低温冷凍装置まで
（ISO VG32、46）

漁協は、JFグループへ。

JFブランド商品

“ギョレンオイル大漁シリーズ”

漁船用エンジンのための最高級オイル。

〈エンジンオイル〉

大漁スーパー
大漁ロイヤル
大漁LL

〈油圧作動オイル〉

大漁ハイドロスーパー

〈冷凍機オイル〉

大漁ベストクール



海には、JFマークの商品を。

JF

JFグループ

問い合わせ先
問い合わせ先

JF全漁連 購買事業部 石油第2課
JF長崎漁連 購買課

TEL 03-6222-1323
TEL 095-829-2419

